

1. 日時・場所

- ・開催日時：令和2年10月16日（金）14時30分～16時00分
- ・場所：経済産業省本館17階国際会議室（一部オンライン開催）

2. 出席者

委員：石村委員、遠藤委員、翁委員、齋藤様（金丸委員代理）、川邊委員、小林委員、篠原委員、松尾委員、村井委員、湯崎委員、吉川委員

オブザーバ：独立行政法人情報処理推進機構デジタルアーキテクチャ・デザインセンター 齊藤センター長、白坂アドバイザーボード座長
国立研究開発法人産業総合技術研究所デジタルアーキテクチャ推進センター 岸本センター長

関係省庁：平井デジタル改革担当大臣
内閣官房イノベーション推進室 赤石イノベーション総括官、
内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室 向井審議官
内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター 山内副センター長
内閣府知的財産戦略推進事務局 田中事務局長

経済産業省：梶山経済産業大臣、商務情報政策局 平井局長、江口審議官、
田辺情報技術利用促進課長、松田情報経済課長（事務局）

3. 議事内容

（1）冒頭、梶山経済産業大臣より以下のとおり挨拶。

- ・これまで、業種、省庁ごとの縦割りでデジタルインフラを整備。縦割り打破のためには、システム同士が連携する際の、全体の「見取り図」たる「デジタルアーキテクチャ」を実装していくことが重要。
- ・我が国の産業競争力を強化し、安全・安心なデータ流通を実現していくために、当面どの分野でデジタルアーキテクチャを設計していくべきか、御議論いただきたい。
- ・齊藤センター長を中心に、産官学の英知をしっかりと結集して、いわゆる「ハード」・「ソフト」だけでなく、制度についても視野に入れ、社会全体のアーキテクチャを描くことを期待。
- ・平井大臣が、政府をはじめとする社会全体のデジタル基盤整備をリードしていく中、この会議で議論した成果を、デジタル庁をはじめ各所に提供していくことを目指す。

（2）次に、平井デジタル改革担当大臣より以下のとおり挨拶。

- ・IT基本法の抜本改正を検討中だが、国民目線でなぜデジタル化に取り組まなければならないか国民にわかりやすく、納得感を届けることが大事。
- ・デジタルインフラが個別に整備されると、肝心なことがつながらず、問題となる。デジタル庁は来年発足予定だが、今年度から各省のシステム関係の予算の見直しを要請するつもり。
- ・デジタル庁は、アーキテクチャやベースレジストリやデータ連携等のルールを決める司令塔になる。このためには、皆様方の協力が必要になる。

(3) その後、事務局より資料1～4について説明。また、オブザーバの齊藤センター長より資料5、参考資料2について説明。なお、事務局説明の中で、情報処理の促進に関する法律に基づき、各省各庁の長より、以下の案件について独立行政法人情報処理推進機構に依頼があった旨が紹介された。

- ・自律移動ロボット（ドローン等）の安全・最適運用
- ・ヒト・モノ・情報の流れの最適化（Ma a Sやスマートシティ等を通じた次世代取引基盤）
- ・連携したシステム全体の安全確保
- ・次世代の政府情報システムにおけるセキュリティ、社会の基盤となるデータベース

(4) 続いて、事務局より資料6（中西委員提出資料）を読み上げた上で、自由討議を行った。概要は下記のとおり。

①Society5.0、アーキテクチャの重要性に関する議論

- ・ デジタルは社会基盤そのものの変革。企業では経営の問題。Society 5.0に向け社会全体のDXを推進すべき。DXを単なる業務効率化ではなく、新しい価値を提供するという価値観を浸透させるべき。
- ・ Society5.0に関し、梶山大臣が技術と市場拡大を、平井大臣が国民理解こそ重要と指摘。技術と、サービスを待ち望む人、どちらが、どう世の中を変えていくのかを、国民に示すべき。
- ・ 日本で先進的に取り組むことで、世界に先駆けて、実世界を含むDXを進められるかもしれない、アーキテクチャセンターへの期待は大きいし、役割は非常に重要。
- ・ 技術革新に合った付加価値サービスデザインと、アーキテクチャ設計が重要。
- ・ 省庁縦割りを廃し、産業構造改革に向けてアーキテクチャを考えることが重要。グローバルに見て、未来の産業を支えられるような基盤を作るべき。
- ・ デジタル化を短期間で実施するには、民間のサービスと公共部門が連携することが必要。ブランドデザインとしてのデジタルアーキテクチャが極めて重要であり、期待。
- ・ システムに広く横串を通すことは、産官学で連携すべき喫緊の課題。デジタルで安全性を確保しつつ、アジャイルガバナンス、デザインシンキング、デジタルガバメントを重視した長期の視点が重要。

②アーキテクチャ検討の分野、進め方に関する議論

- ・ 産官学のデータの活用を促す仕組みを実現するアーキテクチャの検討は重要。
- ・ 共通プラットフォームは協調領域としてしっかり開発し、競争領域は各社が開発すべき。アーキテクチャの分野は、各社がデータを供出でき、一般の国民にとってメリットがある分野。
- ・ 提示された3分野がSociety 5.0に向けた最初の例。信頼性とセキュリティが重要。スモールスタートで、機能や規模に関する拡張性を考えて議論すべき。
- ・ 国際競争力を発揮できる形で標準化していくべき分野から取り組むべき。
- ・ 科学技術の歴史や、心理学、社会学、経済、AI、国際、経済など、あらゆる学問を総動員するため、多様な大学人を入れて議論すべき。

③標準化との接続、その他の議論

- ・ 標準化や国際競争力という観点で協調と競争の領域を決めていくべき。地球全体を見て、国際的な議論と接続することが重要。

- ・ 技術標準は官民の研究所でバラバラに取り組んでいるが、どうつなげていくか、タテ、ヨコ、全体を俯瞰し、コーディネートしたり連結する力が必要。
- ・ 産総研も基盤実現に必要な技術の研究開発や国際標準化を進めており、実証フィールドを活用いただき、協働したい。
- ・ デジタル庁の設立をはじめ、新政権でDX推進に向けた方策を矢継ぎ早に打ち出していることに大いに期待。省庁間の縦割りを打破し、政府一体で推進いただきたい。
- ・ 民間のDXを進める上では、地方におけるデジタル人材確保も課題。

(5) 最後に、オブザーバの齊藤センター長、商務情報政策局の平井局長より総括。概要は下記のとおり。

(齊藤センター長)

- ・ 各産業の内部での最適化は産業界自らが取り組むことが重要である一方で、それをフレームワーク化し制度やガバナンスの観点も入れて分野横断的に横展開し、国全体の最適化を追求していくのがアーキテクチャセンターの役割。
- ・ センターをしっかりした位置づけにすべく、皆様の支援をお願いしたい。また、取組を継続させることで知見をセンターにためていきたい。さらに、問題意識を共にする関係者とネットワークを作って取り組んでいきたい。

(平井局長)

- ・ 大変な期待を感じている。一定の期間をおいて、またこの場で議論させていただきたい。

以上